

すくわくプログラム推進事業実践報告書

所在地	新宿区中落合 3-21-10
施設名	ウズブック保育園中落合

1. 活動のテーマ

<テーマ>

鏡

<テーマの設定理由>

本園では、オリジナル絵本を用いたウズブックプログラムを通して、子どもの興味関心や発達に合わせた活動を行い、一人ひとりの「やってみたい」「知りたい」という思いを大切にしています。ウズブック絵本『これなあに』の読み聞かせをきっかけに、子ども達が鏡を指差したり、鏡に映る自分や保育者に繰り返し関わろうとする姿が見られました。こうした様子から、子ども達が鏡に強い興味関心を持っていると判断しました。

2. 活動スケジュール

7月～9月

- ・手持ち鏡や部屋にある鏡を見してみる
- ・床に置いてある鏡や壁に貼ってある大きな鏡を見してみる
- ・大きな鏡に全身を写して踊ってみる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

〈素材・道具〉

- ・ 大小の鏡
- ・ 鏡を設置する養生テープ
- ・ 段ボールに固定するボンド、ガムテープ

〈環境設定〉

- ・ 部屋の壁に鏡を貼る
- ・ いろいろな形や大きさの鏡を用意する
- ・ 部屋の床に大きな鏡を 2 枚置く
- ・ 部屋の隅に大きな鏡を 2 枚立てかける
- ・ 2 枚の大きな鏡をつなげて壁に立てかける
- ・ 鏡を 1 枚は床に置き、もう 1 枚を立てかけて一辺を合わせて置く
- ・ 部屋の床に大きな鏡を 1 枚置く
- ・ 部屋の壁に大きな鏡を 2 枚立てかける
- ・ 体を動かして遊べるように音楽をかける

4. 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・ 最初は手鏡を見て、その後、部屋の手洗い場、さらに大きい鏡を見る
- ・ 自分の顔や保育士の顔、ぬいぐるみなどを鏡越しに見る
- ・ 鏡を布で隠して「いないいないばあ」をする
- ・ 床に置いてある 2 枚の鏡や、部屋の隅にある鏡、壁にある 2 枚の大きな鏡などを順番に見る
- ・ 床に置いた鏡 1 枚と立てかけた鏡 1 枚を合わせた鏡を見る
- ・ 床に置いた大きな鏡を覗き、映った自分や物を見る
- ・ 鏡を壁に立てかけ、音楽に合わせて体を動かす

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- 床に鏡を置くと、じっと鏡を見つめて顔を近づける姿が見られた
- 「あー」と声を出しながら、鏡に映る自分や保育者に反応し、手を振ったり笑顔を見せたりしていた
- 床に2枚の鏡を置くと、じっと見つめて顔を近づけたり、口で触れたりする様子が見られた
- 鏡越しに映った保育者と目が合うと笑い、保育者が手を振ると笑顔で応えたり手を振ったりしていた
- 保育者が顔を近づけると、鏡に映った顔に触れようとする姿が見られた
- 鏡の上には乗らず、顔だけ出して覗く子どもや、保育者と一緒に鏡の上に立って見る姿も見られた
- 部屋の隅に鏡を2枚立てかけると、映る自分に手を伸ばしたり、顔や手を近づけてじっと見つめていた
- 2枚の鏡を並べて壁に立てかけると、近づいて自分の顔に触れたり、鏡と後ろにいる保育者の方を歩き来したり、自転する姿が見られた
- 床と壁の鏡を組み合わせると、床の鏡の上に座り、前と下に映る像を交互に見たり、手を伸ばしたりしていた
- 鏡に映る自分に興味を持ち、じっと見つめる様子が見られた
- 鏡越しに見える自分に笑ったり、保育者と目が合うと笑顔を見せたりしていた
- 立てかけた鏡には近づいて見たり、少し離れた位置から見たりと、距離を変えて観察していた
- 音楽が流れると、普段はよく踊る曲でも、鏡越しではあまり体を動かさない様子が見られた

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- 大きな鏡では保育者や友だちが映ることを楽しんでいたが、手洗い場の蛇口やシンクに興味が向いてしまう姿も見られたため、事前に不要な刺激を隠すなど環境構成の工夫が必要であると感じた。
- 鏡へ誘導するよりも、子どもがふとした瞬間に鏡に気づき、自分の姿を見つけたときの方が、より喜びや興味が高まる様子が見られた。
- 模造紙で形を切り抜いて鏡に貼ったり、揺れるものやトンネル状の鏡を設置したりすることで、さらに探究心を引き出せる可能性を感じた。
- 床に大きな鏡を置き、その上を歩いたりハイハイしたりして全身を映す遊びも、子どもにとって新たな発見につながると考えられる。
- 鏡をつなぎ合わせて大きくしたことで、歪みが生じ見えにくい部分があったため、より見やすいよう改善の必要性を感じた。
- あえて声をかけずに見守ることで、子どもが自ら鏡に気づき、顔を近づけたり覗き込んだりと、それぞれ異なる関わり方で楽しむ姿が見られた。
- 鏡を口で確かめる様子は、玩具を口に入れて探索する発達過程と同様であり、鏡も感覚的に捉えているのではないかと感じた。
- 子どもと同じ目線で関わることで、鏡越しに保育者へ笑いかけたり手を伸ばしたりする姿が見られ、より主体的な探索につながっていた。
- 鏡の配置を変えることで見え方が変化し、子どもが手を伸ばしたり顔を近づけたりと、集中して遊ぶ様子が見られたことから、環境の工夫が遊びの広がり大きく影響することを実感した。
- 床に置いた鏡では、顔を近づけたり鏡の上に立って覗き込んだりと、多様な関わり方が見られ、子どもが「鏡には自分が映る」ということを理解し始めているように感じられた。
- 初めて鏡に触れる子どもは、口で触れながら探索し、その中で鏡越しに保育者と目が合うことに気づき、笑顔を見せる姿が見られた。
- 鏡を立てかけることで全身が映るようになり、音楽に合わせて踊る姿は少なかったものの、手足を動かしたり後ずさりしたりと、新たな気づきや関わりが生まれていた。
- 今後は、小さな鏡をさまざまな場所に設置するなど、さらに環境を工夫することで、子どもがどのような反応を示すのかを見ていきたいと感じた。